

異文化理解研修（韓国）参加者レポート 2018

異文化理解研修（韓国）は8/5（出発日）から8/30（帰国日）の日程でおこなわれ、本学から11名参加しました。

研修先の蔚山大学校では、韓国語の授業の他にオング体験（オングとは韓国のキムチなどを漬ける陶器の総称）、テコンドー体験のほか、韓国料理を楽しんだり、蔚山、慶州などの観光、コンサートなど盛り沢山のプログラムです。最終日には、学んだ韓国語を活かして弁論大会がおこなわれました。また後半は場所をソウルに移して、ソウル神学大学校で研修をおこないました。神学大学校生とは、出発前からLINE等で交流がスタートしていたので、出会った時に嬉しさは大きかったです。研修では、ディスカッションやホームステイ、日本語を学ぶ高校訪問、児童施設訪問などの研修をおこないました。

■参加者の感想



◎授業は？

蔚山大学校ではまず初めにレベルテストを受けました。テストの内容は筆記、読解、面接での会話のテストの3つです。テストの結果からクラス分けがありました。今年は1a、1b、2、3の4つのクラスに分けられ、自分に合ったレベルで授業を受けることができました。

◎テコンドー体験も！

国の伝統的なスポーツであるテコンドーを体験しました。テコンドーの道着も着させてもらいテンションが上がりました。板割りも経験でき、割れると気持ちよかったです。日本では経験できない貴重な経験ができたと思います。

◎チーズダッカルビなど、研修で出来た仲間と韓国料理を堪能！



韓国の飲食店ではキムチが必ずと言っていいほど、出てきました。また韓国では料理を一つのお皿から皆で分けて食べるという文化がありました。韓国の料理は日本人でもおいしく食べることができました。中にはとても辛いものもあるため、辛いのが苦手な人は注意です。

■ソウル神学大学校



ソウル神学大学校は1911年、宣教師ジョン・トーマス (John Thomas) がソウルの武橋洞に設立した聖書学園が始まりの大学校です。今回の研修ではソウル神学大学校のパートナー学生の自宅にホームステイ、さらに寮にも宿泊し、充実した学生交流を行いました。